

#### ⑤ 芸術系グループ（美術・デザイン学合同）運営委員会

本委員会は、20年9月、10月の計2回開催し、芸術系教育における学士力について検討した。検討に当たり、芸術分野の範囲を美術、デザイン、造形、演劇を範囲とした。求められる能力としては、美学、美術史の位置付を歴史や社会との関連で理解する、芸術系分野専門の理論と技術を統合し、社会の中で活用する、自己の体験を省察し五感で感じとることを重視して、①創作を通じて自己の存在を確認、表現できる、②独創性、感受性に富み、他者に感動を伝えることができる、③芸術分野における専門の技能を活用し、発揮できると、整理した。その整理をインターネットで美術・デザイン系担当教員（サイバーFD研究員）230名に意見を求めたところ、17名から「自己表現は独創性の概念に吸収される、自己表現は芸術活動そのものではない、社会との関係をどのように構築するのかという視点が弱い」などの意見を踏まえ、専門の技術・能力は多彩な分野があるため詳細に掲げることを避けた。また、デザイン系ではコミュニケーション能力やコラボレーション能力が求められるが、固有の能力として取り上げないこととし、以下の通り中間的にとりまとめた。

#### <芸術系教育における学士力>

1. 社会、歴史、科学などの観点から芸術を理解できる。
2. 感受性に富み、創作を通じて独創的な表現ができる。
3. 芸術系分野における専門の理論と技術を統合し、社会の中で活用できる。